

令和5年度 朝来市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：5名 行政（直営）
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - 認知症施策の組み立て
 - 認知症に関する地域ケア会議「脳耕会」の運営
 - 認知症高齢者等総合支援事業
 - 認知症高齢者等SOSネットワーク事業
 - 個人賠償責任保険加入事業
 - 朝来安心見守りネットワーク事業
 - 認知症ケアパスの活用と推進
 - 認知症初期集中支援チームの運営と連携
 - 介護者支援として認知症カフェの支援
 - 認知症キャラバン活動の運営と支援
 - チームオレンジのによる本人、家族、地域のしくみづくり
 - 認知症相談センターとの連携の強化
 - 認知症の本人と家族の一体的支援プログラム事業

報告者氏名： 小畑 知見

朝来市 認知症施策全体図

●認知症施策全般の検討と推進

脳耕会

住み慣れた地域で安心して暮らし続ける共生社会の実現

認知症の人や介護者への支援を包括的に実施できる体制の充実

認知症相談の身近な窓口の周知
認知症サポーター養成講座
キッズサポーター養成講座
認知症チームオレンジの活動
あさごいきいき百歳体操

認知症初期集中支援チーム
認知症SOSネットワーク
認知症高齢者等GPS助成事業
個人賠償責任保険加入事業
認知症カフェの充実



認知症の本人と家族の一体的支援
プログラム事業



若年性認知症、軽度認知症の人と
家族への支援の充実



朝来市における本人の声を起点とした地域づくり ～朝来市認知症の本人と家族の一体的支援プログラム事業～

● 認知症本人と家族の 一体的支援プログラム事業について

認知症の本人と家族と一緒に参加できるプログラムで、1～2か月に一回程度、話あいだ家族と本人が思いを共有し、活動を楽しむことでお互いの思いや葛藤に気づき、他の家族に出会うことで、自然に関係性のあり方の気づきを得ることができる。

やりたいことは本人と家族のミーティングで決定
「本人のやりたいことを実現しよう」



認知症の人と家族の一体的支援プログラム事業について

- ◎課題 若年性認知症、軽度認知症者が診断後から介護保険につながるまでの空白の期間の支援
認知症の進行による、虐待ケースの増加
- ◎目的 認知症の本人の居場所と認知症の本人が思いを言える場。
一緒に活動することで認知症の本人の力を家族が知る。
認知症本人と家族が一緒に活動や話し合いをすることで、家族関係の再構築を行う。
早期に専門職に相談が出来る。
- ◎実施主体 さくらの苑（高齢者相談センター）に委託
（高齢者相談センターの早期の相談ケースの対応、初期集中支援チーム員会議との連携）
- ◎回数 概ね2か月に1度

実施日時	9月	11月	2月
内容	コーヒーの入れ方とお互いにコーヒーを淹れあう	クリスマスリースづくりとクリスマス会	春の花の寄せ植え
参加者	本人3名 家族5名	本人4名 家族4名	7組参加

前回の活動の振り返り（写真などを使い、振り返る）→ 今日のプログラムについて→
プログラムの実施→ 今日のプログラムの振り返り（感想など）→
次回のプログラムを本人や家族と決める（写真などを見ながら決定する）

認知症と家族の一体的支援プログラム事業の様子



寄せ植え だいふく
~DAIFUKU~

神戶製罐株式会社キャラクター
"だいふく"ちゃん

日付: 令和6年 3月 13日(水)
時間: 14:00~
場所: さくらの苑

さくらの苑で寄せ植えを行います。
お気軽にお越しくださいね!

問い合わせ先
さくらの苑 (中島・坂本)
〒869-5252
朝来市和田山町竹田2486-10
☎ 079-674-0264

認知症の人と家族の一体的支援プログラム事業について

- ◎参加者 Aさん（夫と参加、本人は短期記憶を保持することが難しく、5分前のことも忘れてしまう。普段はデイには行きにくい）
Bさん（嫁と参加、介護者の嫁の介護負担は大きく、嫁が怒ることが多い）
Cさん（孫と参加、認知機能の低下により、意欲が低下している）
Dさん（娘と参加、MCIと診断されている。うつ傾向である。
いきいき百歳体操のリーダーをしているがあいまいなことが増えてきた。）

認知症本人の感想	家族の感想
こんな会に初めて参加させてもらって楽しかった。 また呼んでほしい。	認知症と診断されてどうしようかとおもった。こういう場所に参加できて楽しんで活動していてよかった。
家では寝てばかりおるのに、今日は孫が思わんところにつれてきてくれた。家で寝てたら体験できひんことをさせてもらった。 うれしかった。	いつも「あんたの好きなようにしたらええで」というおばあちゃんだけど、今日はこのあたりに飾ったらええなあと自分で決めてリース作りをしてくれた。 こんな積極的なおばあちゃんがみれてよかった。
嫁が来てくれてよかった。	いつも怒ってばかりおるけど、おじいちゃんにコーヒーを入れてもらえるなんて思わなかった。

- 最後に・・・
 - この事業を通じて、本人のやりたいこと、出来ることを家族が知る機会となり、（認知症を発症してからの）思い出を家族らが共有持することができた。
 - 認知症のAさんという関わりではなく、本人の好きなこと得意なことをみんなで共有できる地域づくりをしていきたいと感じている。

